

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	特定非営利活動法人りくべつエヌピーオー優愛館 グループホームゆうの里	評価実施年月日	平成20年11月20日から平成20年12月31日
評価実施構成員氏名	管理者 原子 貴宏・ケアマネージャー 沼澤 次善・介護リーダー 織田 清美・介護主任 山内 和子		
記録者氏名	理事長 原子 裕志	記録年月日	平成21年1月26日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>・ゆうの里の基本理念がある ・生きがいホーム通所事業(ミニデイサービス)、高齢者共同生活支援施設(自立5人入居)の調理、管理部門を陸別町から受託している</p>		<p>・平成20年度から社会福祉協議会が実施している高齢者給食サービス事業を受託し地域の高齢者を支援している。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>・毎日、朝の引継ぎ終了後ふれあいルームにおいて、利用者と一緒に基本理念の朗読を実施している ・優愛館だよりに基本理念を掲載している。 ・基本理念実現のため、毎月1回社内研修を実施しその人にあったケアの実現に取り組んでいる。</p>		<p>・利用者と職員がより信頼関係を創れるよう努めたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>・優愛館だよりに基本理念を掲載し、家族に送付している。地域には役場、信金に優愛館だよりを配布している。</p>		<p>・2ヶ月に1回は発行していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>・町内イベントに利用者と一緒に参加するよう努めている ・一昨年の10月から町内会の会員となるべく町内会に加入の意思を伝えたが、未だ返事が来ない。時間をかけて町内に理解されるよう努力していく。 ・隣接している施設で老人クラブの会合があるときは、利用者の知友人が立ち寄ってくれる。</p>	○	<p>・町内会加入のお願いをしているが、未だ返事がないのが、参加出来る行事には参加していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>・地域の行事に積極的に参加し、交流するよう努めている</p>		<p>・町内行事には積極的に参加していく。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>・隣に在宅高齢者が集う公共施設があるので、気軽によってもらおうよう声かけをし、必ず立ち寄ってもらっている</p>		<p>・隣接している「ふれあいの郷」「福寿荘」の利用者と交流を深めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・自分たちではなかなか気がつかないことを外部評価で指導をいただいて理解し取り組んでいる。過去に玄関前にゆうの里の看板を設置した。		・いろいろな意見をいただいて利用者を支援できるよう、職員の資質向上に役立てていきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・20年度から町内会に加入し運営推進会議の構成メンバーにお願いしていくつもりだったが町内会加入の話がきていないので、21年度中に設置していきたい。	○	・町内会役員を構成メンバーに考えていたので、未だ設置に至っていないが、21年度中に設置していきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・担当課、担当職員と連絡を取り合っている。町から介護予防教室の事業を受託している。		・介護予防教室を年3回実施
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・必要な場合は、司法書士と連携し、取り組んでいる。職員全員のものになっていないので勉強していきたいと思っている。		・認知症高齢者を守る制度なので、こういう制度があるという基本的な事でも勉強していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・拘束、虐待はしていないがどこまで虐待か事業所での議論は不足している。		・物事を利用者中心でなく、職員中心で進めるとトラブルが出てくるので、その事はしっかり研修の中で、意識付けをしている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・入居時に家族、身元引受人に説明をし理解を得て契約している。		・退所する意思表示は家族が行うので、退所時の問題は特にない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・日頃利用者の皆さんに、不満、苦情を聞くようにしている。 ・苦情の連絡先も説明をし、室内に掲示している。		・利用者、面会時の家族との会話を多くしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	・小遣いの出納簿の写しを、利用料請求時にお知らせしている ・利用者の健康状態は、家族に連絡している。		・利用者の体調の変化がある場合は家族に連絡し、対応している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・苦情相談窓口の連絡先は、重要事項説明書に記載、ゆうの里内に掲示している。 ・何か疑問を感じたときは、常に連絡いただけるよう、配慮している。苦情があった場合は職員に周知し同じ間違いをしないよう努めている。		・日頃から不平、不満等の苦情が出ないように努めていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・日頃職員の意見を聞くように心がけている。月1度の社内研修時に必ず発言できる雰囲気づくりに努めている。		・月1回の社内研修の他に日頃から職員が気軽に意見が言えるような雰囲気作りに努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	・その時々に対応できるよう職員の協力をいただいている。ちよくちよく勤務以外でも職員が顔を出してくれる。		・柔軟に対応している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・異動は現在ないが、新職員について2日程度研修をしてもらって馴染むよう配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・管内、札幌等に職員の資質向上につながる研修会には積極的に参加してもらっている		・月1回の社内研修は職員2人ペアで問題提起をしてもらい解決方法等議論している。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・十勝保健福祉事務所、管内のグループホーム見学、高齢者グループホーム協議会主催の研修会等に参加し資質向上を図っている		・近隣のグループホームの見学を実施していく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	・親睦会、パークゴルフ同好会を設け、親睦の機会を設定している。レクリエーション担当を決め親睦を深めている。		・親睦会、レクリエーション担当を中心に忘年会、新年会、パークゴルフ、カラオケを実施し、雰囲気づくりに努めている。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	・情性に流されることなく、振り返る事も大切。そして見直しが必要なことを発言してもらうよう配慮している。職員の発案を大事にし出来ることは取組するよう配慮している。		・グループホーム内に薬、畑、ツレクレーション、厨房、掃除担当を決め、全員に役割を担ってもらい、その担当の意見を尊重している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・部屋に閉じこもらないよう配慮し、話し相手、ゲーム等に積極的に参加してもらうよう、努めている。		・全体的に落ち着いているが不安がある、寂しいという場合は、家族に連絡し速い機会の面会をお願いしている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・利用者が不満、苦情の話しをしていないか家族の面会時に家族と話しをするよう努めている。 ・節目、節目には元気に過ごしていることを伝えている。		・全員の様子を把握し、引継ぎを行っているがひとり一人の体調、精神状況を把握できる職員の資質向上が急務。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・相談の内容により、何が今必要か等支援している。無理に入所は勧めない		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・すぐ入所ではなく、どんなことをしているか体験、見学をしてもらっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・今もっている能力を失わないよう、職員と一緒に出来ることを手伝ってもらっている。畑の草取り、食器洗い、食器拭き、洗濯物をたたむ、掃除等		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・入居時に家族の協力は不可欠であり、一緒に支援していくお話をさせてもらっている。全てグループホームではできないので家族で出来ることは家族にお願いし、その家族も一人ではできないので家族、兄弟の協力が必要なことを説明している。	○	・不安、寂しさ等を解消するため職員の努力はあたりまえのことだが、やはり身内、家族の面会が最高の励ましになるので、利用者の状況を把握し、家族の協力をいただいている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・今まで疎遠になっていた家族が面会にきたことを利用者、身元引受人に話しをしていくことで、親子、兄弟の確執を和らげていくよう、努めている。	○	・親戚、兄弟の来所状況も身元引受人に伝えている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・町内見学の時は、なるべく自分の家の近くを通り見せている。馴染みの方にあつたときは面会をお願いする等努めている、		・町内イベントに参加した際、馴染みの人との会話を聞く中で、来所をお願いしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・今の能力が落ちないためにも、食事の準備、テーブル拭き等他の利用者のことも手伝ってもらい、お互い支え合うことに配慮している。みんなでゲーム等遊ぶときは、全員に声をかけし本人の意思を尊重しながら、ひとり生活をさせないよう配慮している。		・何事にも全利用者に声かけはしている。本人の体調のこともあるので、本人の意思を尊重している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・家族との関係は相談にのる等つながっているが、利用者との関係は断ち切っているわけではないが疎遠になっているのが現状。		・退所後は疎遠になっている。事業所の関係もあるので難しい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・何をするときも職員が一方向的に勧めることはしない。利用者の意向で物事を勧めている。現在室内で行っていることがマンネリ化してきているとの職員の声もあるので、新しいものやってみる行動が必要と職員に話しをしている。		・利用者にとって、職員自ら楽しい魅力あるグループホームとは、研修していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・病歴、生活歴、趣味、嗜好、友人等は入所時把握しているが入所後も話しをしながら把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・病歴、生活歴、趣味を考えながら、無理をさせず、本人の意思を尊重し、今ある能力の把握に努めている。		・いつもと違う変化を見抜く職員の資質向上に努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・本人、家族の希望や意見を聞くと同時に、職員の意見を聞きながらケアプランに反映している。職員、利用者が出来ないことは計画しない。		・ケアプランを全職員が共有できる状況を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・現状にあったケアプランを作成しているが、沢山の目標は作らないようにしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個々の生活状況記録の作成、排便状況等細かく記録している。宿直、日勤の引継ぎをする等利用者の健康状態を共有して介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・身よりのない家族、運転免許のない家族等の状況に応じて、町内外の受診の引率、送迎をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・消防署に名簿を提出し、防火、救急の支援をいただいている。 ・町内小学生、中学生、近隣の高校のボランティアを積極的に受け入れている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・介護福祉施設に移行する際は施設担当職員と連携を取りながら対応している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・連絡、相談、情報の提供は行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・町内診療所が協力機関になっているので、まずは診療所に受診する。その際家族が引率するときは利用者の状況、変化を的確に伝える。利用者が体調をくずした場合は、早めの受診に心がけている		・基本的には家族に受診をお願いしているので、体調の変化、薬が無くなる日等を早めに連絡している。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・町内診療所の担当医に利用者の変化を伝え、早めの受診に心がけている		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・町内診療所の担当医に利用者の変化を伝え、早めの受診に心がけている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・町内診療所に入院した際は職員が必ず面会をする等して、洗濯物、着替え等の支援をしゆうの里に早く戻れるよう励まし退院につなげている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	・受診時の状況により、グループホームで「できること、できないこと」医師のアドバイスをもらいながら、家族にもその旨伝え、今後の方向を共有している。医療が伴うとグループホームでの限界を家族に理解してもらい、今後の対応を一緒に考えている。担当医がグループホームの役割を知っているので、気軽に相談している。		・他のグループホームの見学、取組状況を勉強しながら、一定の考え方をまとめた。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・グループホームでの限界を家族、職員と共有し、今後の対応を家族と共に行っている		・グループホームでの往診が無いので、診療所との連携をふかめたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>・自宅、他のグループホーム等からの入所の際は情報収集しダメージ防止に努めているが他の施設に移行した際は行われていない。相手があることなので関わりは難しいのが現実</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>・基本理念の精神に則って接している。個人情報の取り扱いは充分注意をしている。</p>		<p>個人情報保護法の研修会参加していく。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・理解力に合わせた対応をしているが理解されない場合は、他の職員が補う等協力して対応している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・1日のカリキュラムは定まっていないので、本人の意思を尊重しているが、職員のペースで運ぶ時もあるが、あくまで本人の意思を尊重している。</p>		<p>・10時、15時のおやつタイムはゆったりとする。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・自分で衣類の選択ができない、おしゃれのできない利用者は、職員が行っているが本人の意思を尊重している。</p>		<p>・自分で衣類の選択ができない時は本人の意向を尊重し選んでいる。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・献立、買い物の利用者の参加はないが利用者が望むものの配慮は行っている。食事の準備のテーブル拭き、食器の準備、食卓に料理を運ぶ、後片付け、食器洗い、食器ふき等は自発的に手伝ってくれる。強制はしない。</p>	○	<p>・食事メニューの作成、買い出しに利用者に関わってもらう。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・基本的に本人の希望に添うよう努めているが病歴のある人は担当医に相談し対応している ・喫煙者は決められた場所を設定している。(事務室)		・正月、お盆、秋祭り等には普段と違う食事メニューに配慮している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・毎日、排便回数、量等の状況の把握に努めている。トイレに行くような仕草があったときは、なにげなくトイレに誘導している。担当医の指示により下剤によるコントロールを取り入れている。		・基本的に便秘をさせない配慮をしているが、便秘が数日続くと体調を崩すので医師の指示による下剤投与を利用している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・基本的に週2回から3回入浴し、本人の希望温度に対応している。受診する前日、汚れた時等柔軟に対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・安眠できるように、日中はなるべくゲーム、カラオケ等に参加してもらうよう心かけている ・眠れないときは、無理に床につかせず、話し相手になるように努めている。		・夜眠れない利用者がある場合は、一定程度職員が会話し、自室に誘導している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・持っている能力にあわせた手伝いをお願いしているが、利用者も喜んで手伝ってくれている。本人の体調を把握しながら本人の意思を尊重する。		・具体的に食器洗い、食器拭き、テーブル拭き、配膳、室内掃除等を自発的に手伝ってもらっている。体調がすぐれなくても一生懸命やるので、体調の変化を把握し無理をさせない。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・理解をしている利用者に対し職員が買い物に同伴する機会が少ない。所持金のこともあるが本人の体調、天気等を考え、今後数多く取り入れたい。		・全員が参加できなくても、行ける人だけでも外出の機会を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・日常的にはゆうの里の周りの散歩は取り入れている。町のイベントがある場合は、利用者の体調を考え参加している。天気の良い日は山菜採りを実施したが回数を増やしていきたい。	○	・全員の外出を念頭においていたが、個々の体調、能力に合わせた取組をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・家族の協力が必要であり、今まであまり機会がない。ゆうの里として町内の花、施設見学等は実施している。		・町外のスーパーマーケットでの買い物の実施。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	・家族からの贈り物が届いた場合のお礼の電話は必ず本人がでるよう支援している。・今年初めて年賀状の取組をしたがそのせいもあるのか正月に家族で顔を出してくれた。今後も取組したい。家族が来所した場合は、利用者のいい状況であることを伝えて家族が安心して帰るよう、配慮している。		・今年初めて年賀状の取組をした。その結果の検証をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・道路等で利用者の知友人に出会ったときは、元気で過ごしていることを伝え、遊びにきていただくようお願いしている。来客者にはお茶、お菓子等を必ず出す等して、和むよう支援している。		・
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束はしていないしする必要ない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・利用者の部屋に鍵はついていない。玄関、非常口等の一般的なところは夜間施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・常に利用者がどこにいるかスタッフの連携をしながら把握している。杖を利用して利用者が多いので動く際は利用者の近くに寄るよう心がけている。		・職員としての気配り、目配りが出来るように資質の向上に努める。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・薬は利用者の目の届かない所に保管し、ハサミ等の危険物は放置しないよう心がけている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・防火対策では宿直を2人体制にしている。年1回消防署の協力をいただいて、火災、救急車の要請等の訓練をしている。昨年は全員が救急救命の講習を受講した。		・事故報告、ヒヤリハットの作成し、未然に防ぐよう共有している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・年末には消防署の協力をいただいて、食物が詰まったときの対応等の講習を受け、全員に周知徹底を図った。		・事故報告、ヒヤリハットの作成し、未然に防ぐよう共有している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・年1回は全スタッフ、利用者を巻き込んだ避難訓練を実施して、火災箇所により誘導の確認をしている。		・町内行事に参加していきながら、地域の人に協力をお願いしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・1年1年利用者のレベルが落ちてきていることを家族に伝え、その分職員の資質向上が求められるので、町内外の研修に参加している。リスクがあるからと言って何もさせないと言う事にはならないので、その分怪我をするかもしれないことは、家族に理解を求め家族も了解してくれている。		・家族が来所した際は歩行レベルが落ちてきているので、コールを鳴らすようお願いしていることをお話しているが、自分で歩こうとしている旨を伝えている。家族から遠慮なくコールするよう協力してもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・朝夕の職員が交替するときは、一人一人の状況に対応したこと、対応を望むこと等引継ぎをしている。その人の体調の変化を見抜く職員の資質が求められるので、町内外の研修会に参加している。1日の生活状況記録スタッフ全員が共有している。		・個々の体調変化を見抜くような職員資質の向上に努める。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の管理は管理者が行っている。家族が受診を忘れ薬がなくなることも予想されるので、一人一人の薬の状況が分かるよう一覧表を作成し職員が共有している。		・薬が無くなることを早めに家族に連絡しても、対応が無い場合があるので、再度確認できるような体制に努めていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・便秘予防含めて、午前、午後のおやつ時に水分補給をしている。また、午前中には軽体操の里内散歩を行い体を動かしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・毎食後うがい、歯磨きを励行している。義歯はハブラシを使用し、夜は義歯洗浄剤を使用し衛生を保っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・1日1,300CCの水分補給に努めている。体調に合わせて一人一人の水分補給量を把握することもある。食事の摂取状況の把握に努めている。本人の調子に合わせて時間がずれたりしているときもあるが柔軟に対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・日頃室内では、手洗い、うがいは励行している。特に、室外から戻ってきた場合は玄関で消毒している。ノロウイルス対策は日頃から注意を払っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>・布巾やまな板、包丁は使用後消毒をしている。食材は冷蔵庫で保管し、定期的に清掃している。食材は毎日購入し長期保存はしない。</p>		<p>・調理器具、まな板等は特に1週間に1度キャンスイ(厚生労働省認定・除菌消臭水)による除菌に努めている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>・ゆうの里の玄関前には看板を設置し植木鉢をおいて柔らかい雰囲気をつくっている。・利用者自ら建物周辺の枯れ葉の掃除、玄関掃除をやっている。自分が済んでいる建物、自分が出入りする玄関の意識を持っているので無理せず今後も継続していく。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・室内には行事の写真を掲示し、季節感が感じられる花等を飾っている。また、利用者が作成した塗り絵を飾ってやわらかい雰囲気づくりに心がけている。トイレの照明は自動でつくように利用者の混乱をさける配慮をしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>・食堂、ふれあいルームは共用スペースで自分の席が定まっている。他利用者と会話が出来るよう、ソファ等を設置している。建物の中には2人～3人程度座れる備え付けの椅子を設置し、気のあった利用者が会話できるスペースを確保している。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・居室は自分が親しんだ家具、好みの物を配置してもらっている。仏壇もおいている人もいる。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>・ゆうの里内は利用や、職員の体感温度を感じながらこまめに温度調整をし、現在の暖房メモリがどのようになっているか、大きく表示し共有している。個々の室内には体調に合わせて温度調節ができるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・室内、トイレには、通路には手すりを設置し、。自力による歩行を支援している。風呂は両サイドから職員2人が介助できるよう配慮している。暖房は石油ストーブを使用せず、は床下暖房を取り入れ利用者の安全に配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・居室を間違えたりすることもあるので、本人希望を取り入れて、目印のものをおいてある。 ・軽体操の時には、「今日は何月何日何曜日何時」等確認しながら取り組んでいる。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・ゆうの里の前に小さな畑があるので、草取り、収穫を利用者と一緒に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ○③たまに ○④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ○②少しずつ増えている ○③あまり増えていない ○④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ○③職員の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ○③利用者の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ○③家族等の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・平成17年2月1日開設以来丸3年が経過したが、しっかりしていたとは言え高齢者であるため、年々生活レベルが落ちてきている。その落ちた分をスタッフが補うことが重要である。そのため職員の資質向上を図る意味でも今後も職員研修は積極的に取組んでいきたい。
- ・介護職場の一番大変な所はやはり夜勤である。出来る限り夜勤2人体制を維持していきたい。
- ・日勤、夜勤のスタッフが変わるので、分からないこと、知らないこと、出来ないこと等多々あると思うが、分からないことはわかる人に聞く、知らないことは知っている人に聞く等次の行動に移すことを前向きに心がけていきたい。